

保育者養成校における入学前準備授業と バスティン・ピアノメソッドを用いた ピアノのレベル別学習に関する一考察

佐藤 雄紀

〈抄 録〉

日本の幼児音楽教育の中でピアノは大きな位置を占めている。現在、保育者養成校におけるピアノ初心者の割合は7割に及び、保育現場からの要求も年々変化しているが、養成校のピアノ教材、カリキュラムに大きな変化は見られない。本学では入学前準備授業とバスティン・ピアノメソッドを用いて、様々な進度の学生が満足でき、力を伸ばせることを目標に、大幅なカリキュラム変更を試みた。現代の保育者養成校における理想的なピアノ教育のあり方を、実践と調査を基に探った。

キーワード：保育者養成、ピアノ、レベル別、教材、バスティン、バイエル、入学前準備授業

I はじめに

1 保育者養成校のピアノ教育が抱える課題

筆者はこれまで様々な保育者養成校でピアノを指導してきて、養成校のピアノ教育にはまだまだ改善の余地があると長い間模索してきた。

- 1) 現在保育者養成校に入学してくる学生は、ピアノ初心者の割合が非常に多い。2年という短期間で技術のみでなく、ピアノを楽しみながら音楽的素養を身に付けさせ、保育現場で最も必要となる弾き歌いの修得に向けてスムーズな移行のできるピアノの導入教材の再考の必要性。
- 2) ピアノ初心者の自己効力感¹⁾の形成、練習習慣定着のために養成校が

できることは何か再考する必要性。

- 3) 様々な進度の学生が混在するピアノの授業で、全ての学生がやりがい、楽しみを持って臨めるカリキュラム再考の必要性。

まず 1) について。本学でピアノの経験についてアンケート調査をしたところ、10 年 16%、5 年 14%、3 年 16%、初心者 54% という結果になった。ピアノの経験年数 3 年は、かなり初心者に近いということを考えると、約 7 割はピアノ初心者ということになる。他の養成校でもピアノ初心者の増加傾向が見られ²⁾、この傾向は今後も続いていくと思われる。それでも (多くの養成校は) 2 年という短期間の指導で、保育現場で通用するピアノの水準にまで学生を引き上げていかなければならず、以前にも増して養成校に課せられた使命は大きくなっている。このような学生の現状や保育現場からの新たな要求に答えていくためにも、ピアノ教材やカリキュラムの見直し、養成校教員の意識改革は急務である。

日本の多くの養成校には未だバイエルが君臨している³⁾。だが果たして、この圧倒的に高い数字が物語るように、バイエルは保育者養成校のピアノ教育に最もふさわしい教材ということになるのだろうか。小倉 (2013) のアンケート調査でも、賛否両論様々な意見が出ている。「初めてピアノを学ぶ学生に、順序よく確実に基礎の練習ができ、初歩の教則本として優れていると思われる。」など、バイエル容認派の意見がある一方⁴⁾、平井 (1961) は「近頃『バイエル』の欠点があらゆる方面から指摘されるようになった。この教則本はピアノの実技よりも、また音楽そのものであるよりも、音楽の構成への理念を第一義的に取り扱っている傾きがあって、そのために児童達のピアノ初歩教則本としては、必ずしも妥当な学習書とはいえない難いふしがある⁵⁾」と 50 年以上も前に述べている。保育者養成校に入学してくる初心者は児童ではないが、音楽の魅力を子どもに伝える立場になる学生である。その学生の学ぶ教材として最も適切なものなのか、再考しなければならないだろう。木村 (2009) もこの点について『バ

イエル』というテキストがあってこそそのひとつの体系をなす指導法が、それこそ揺るぎなく存在しているものかもしれないが、何びともそれに従って学習すればエスカレーター式に上達してゆくものでは、ピアノはそもそもない。ピアノを指導する立場の人間が、「とにかく導入には『バイエル』を」という認識を持っていたことが、教員養成課程及び保育士養成機関に於ける基幹的な教育の段階に伝播したように、その後の進路いかんはともかくとして、やはり導入教育には『バイエル』を宛がったというその短絡的な姿勢こそが、少なくとも疑問視される必要はあった筈だ。⁶⁾」と述べている。また、現場での実践力という観点で、井口（1994）は「歌唱教材では、バイエルに比べ付点のリズムやシンコペーション、タイで結ばれた複合リズムが多い。歌唱教材でのピアノは歌の伴奏なので、速いパッセージや音階など、ソロ用の技能とは異なる要素を持つ。⁷⁾」ということを明らかにしている。

このような流れの中で、バイエルからの脱却の動きは少しずつ養成校の中でも高まりを見せている⁸⁾。筆者も常々思っていたが、バイエルはある特定の古典派を演奏するためのやや古めかしい教材であり、芸術性・音楽性に欠けている。学生のピアノへの興味を引き出し、最大限能力を伸ばし、保育者としてのピアノの素養を育てる教材としては適切ではない。三善晃も自身の miyoshi ピアノ・メソッドを出版するにあたってのインタビューで（筆者要約）、「生徒さんが初めてピアノに触れたところから始めていて、楽しくピアノと仲良くなってもらおうと導入部を丁寧に作った。全ての練習曲が音楽作品である。どんなに訓練のための練習曲があったとしても、それを音楽として扱って頂きたい。そこに表情とか音色とかアーティキュレーションとか、全部こめられている。それを生徒さんと一緒に感じてほしい。これまでの教則本というのは、直線的に難易度で上がっていくように作られているが、この曲集は、螺旋階段のように時には下りたり、少し挑戦したり、散歩しながら音楽全体を経験していくように作られている。指を訓練したり、筋肉をつけたりすることは大事だが、どんなにうまくなっても役に立つような方法が随所にちりばめてある。音楽のイ

メージを指の運動から耳とか目とか、心の中に結んでいくということが願われている。バイエル、チェルニー、ソナチネは、今私たちがピアノの使って弾こうとしている音楽全体から見れば、本当に小さい一部分に過ぎない。この曲集にはバロック、古典派、ロマン派、近代、民族的な特徴を備えたものも全て入っている。近代和声も用いており、どれを取り上げても演奏会のレパートリーになる。⁹⁾」と述べている。これからのピアノ導入教育の理想的な姿がここにあるのではないだろうか。

ピアノは日本の幼児音楽教育の中で大きな位置を占めている。保育者養成校は2年という限られた期間で、今や7割にも及ぶピアノ初心者に基礎を身に付けさせ、感性を刺激し、ピアノの魅力を体感させ、練習の方法を会得させ、多くの弾き歌い曲を演奏できるようにし、保育者としての音楽的素養を育てていくという使命がある。2年という短い期間でピアノを完全に修得することは無理だし、熟成する時間もない。だが、その限られた時間の中で学生をどのように成長させてあげられるか、卒業後も伸びていける力をつけさせてあげられるかが大変重要である。ピアノの上達にとって、毎日の練習が大切なのは自明のことであるが、大学の一授業科目として見た場合、これは非常に例外的なことと言える。ピアノを幼少期から学んできた養成校の教員は、上達するためには毎日の練習は当たり前と考えてしまいがちだが、初心者は特に練習する習慣がないので、これは大きな負担である。また、養成校の学生は非常に授業時間数も多く¹⁰⁾、練習する時間を見つけるのも困難な現状だ。悲観的なことを述べてしまったが、これらを打開するためには、ピアノの練習に楽しみが持て、学生の意欲、自主性を伸ばしてあげられる魅力的な教材の選択が必須になってくる。

これは上に示した2)にも繋がってくる。筆者は現在まで多くの初心者を指導してきたが、正しい練習方法が分からず、最初から両手で弾いてしまい、自分は弾けないと悲しみや苛立ちを感じ、すぐに練習をやめてしまう学生、また進度の速い友人と常に比べてしまい、自身の成長に目が向けられず、ずっとピアノが苦手だという意識から抜け出せない学生を多く見てきた。吉村（2015）

もピアノ初心者にとって、自己効力感は非常に重要であると述べている¹¹⁾。

今回これらのことを踏まえ、本学のピアノカリキュラムを大きく変更するにあたって多くの導入教材を比較・検討した。その中で筆者の目を引いたのはバスティン・ピアノメソード¹²⁾であった。このメソードでまず素晴らしいと思ったのは、全ての曲に標題がついており、豊富な挿絵を伴っていて、ピアノを学び始める初期段階から学生の想像力をかきたててくれると思ったところである。また、多くの楽曲に歌詞が付いていて、弾き歌いへのスムーズな移行が期待できることに加え、テキストに載っている歌詞付きの曲も実際に園で歌えそうなものが多く、ピアノの学習に付随して、音楽の基礎知識が身に付けられるという構成も魅力的であった。また、ピアノ経験が異なる学生一人ひとりに合わせて、使用するテキストのスタートを柔軟に変えられそうなところ、多くの曲の合格をもらいながら学習を進められることにより、初心者に自己効力感を持たせてあげることが期待できるところなどを総合的に判断し、バスティン・ピアノメソードを教材として採用した。

そしてもう一つ、2) の練習習慣の定着に向け、上記のバスティン導入に加え、本学が取り入れたのが入学前準備授業であった。奥(2013)も(入学前の)「ピアノ初心者向け講座」は保育の原点そのものであり、そこで得るものはどんなピアノ歴にも優るものがあるとその重要性を述べている¹³⁾。本学では2回のピアノの入学前準備授業を行った。他の準備授業との兼ね合いもあったため、非常に短い時間ではあったが、学生に事前に課題を渡しておき、一人ひとりレッスンをを行った。今回の準備授業を終えて、入学前の期間はとても貴重で、入学後のスムーズなピアノへの導入には欠かせないと感じた。少し大袈裟かもしれないが、前期授業の成功の半分はこの準備授業にかかっていたかもしれない。学生にとって2年という限られた期間を何か月か延長することができるし、大学の授業が始まっていないため、時間的な余裕もある。多くの学生は高校に在学しているので、音楽の教員に聞くチャンスもあり、進学先・将来の目標も具体的に決まっているので、ピアノに取り組まなくてはという意欲も持ち始めて

いて、練習習慣の定着を図るには非常に有効な期間と言える。今年度はまだ導入教材の研究前でもあったので、バイエルの2曲（No.21 と No.55）、それより進める学生は、基礎力の把握がしやすいブルグミュラーの「アラベスク」を課題にした。また、譜読みがどの程度できるかを小テストで確認した。2回目の授業までに、1回目の準備授業の復習と「ぶんぶんぶん」の歌唱を課題にしておき、できそうな学生には早速弾き歌いに挑戦してもらった。今年度カリキュラム、教材を大幅に変更したことを受けて、来年度はこの準備授業もより魅力的な課題に見直す予定である。入学前準備授業の詳細は後ほど章を設けて述べたい。

最後に 3) について、現代の養成校の難しい点として初心者が増加傾向を述べてきたが、それでも一定数は経験者、上級者も入学してくる。本学のピアノ経験の調査でも 10 年 16% 5 年 14% と 3 割いる。これまで養成校でピアノを指導してきて、これらの学生の伸び悩みというのも多く見てきた。それは、多数を占める初心者に目がいくあまり、経験者、上級者に適切なカリキュラム、教材が与えられてこなかったということも大きな要因ではないだろうか。CiNii で検索してみても、養成校の初心者に関する論文は多数見受けられるが、経験者、上級者に焦点をあてた論文は、ほぼ見当たらない。2 年間のピアノのカリキュラムを学年で区切ることなく、上限なく横断して学べるようにし、初心者、経験者という 2 つの枠にとどまらない細かなレベル分けを行い、そして何より経験者、上級者が初心者を教え、助け、刺激を与え、学生皆のレベルを底上げできないかということを筆者は常々考えていた。これらを受けて、今年度大幅に改定したカリキュラム、アンケート結果、授業での取り組みなど、後ほど章を設けて詳しく述べる。

本稿では、これまで筆者が保育者養成校でピアノを指導してきて、浮かび上がってきた上記 3 つの課題に対して、本学がどのように取り組み、それによって学生にどのような変化があったのかを、実践と調査を基に述べていきたい。

II 入学前準備授業

1 2月20日の入学前準備授業

本学では2月20日、3月18日に入学前準備授業を行った。この章では、その詳細とアンケート結果、今後の課題について述べていく。

合格者には事前に課題を送付し（図1、図2）、1回目の入学前準備授業で実技テストを実施することを知らせた。図1にあるように、バイエルのNo.21またはNo.55を高校の音楽の先生などに見て頂き、どちらかは必ず弾けるように、No.55が易しいと思う学生はブルグミュラーの「アラベスク」を練習してくるよう指示しておいた。

- No.21の出題意図は、ト音記号で出てくる音の基本的な理解、異なる両手の動きの修得、4種類の音符の長さの理解である。また、最初からヘ音記号を入れてしまうと初心者の学生にとって難しいため、両手共にト音記号の曲で、最初に指を置いたポジションのまま弾ける、指くぐりのない曲を選んだ。
- No.55の出題意図は、付点4分音符のリズムの理解、左手のヘ音記号の演奏である。指くぐりはない曲を選んだが、No.21から一歩進んで、指を開いたり、ポジションの移動があり、難易度が上がっている。
- ブルグミュラーの「アラベスク」の出題意図は、弾き歌いでとても重要になる軽快な和音の奏法、豊富な強弱記号、テンポの変化、そして何より右手にも左手にも16分音符が出てくるので、学生の実力が確かめやすい。左手の16分音符は経験者の学生にとっても非常に難しいのである。

2月20日は皆の前で一人ずつ順番にピアノのレッスンを行った。その間、ヘッドフォンを付けて電子ピアノで練習している学生もいれば、レッスンを熱心に聴講している学生もいた。大学という慣れない環境で、知り合いもほとん

どおらず、人前に出て一人でピアノを弾くという他の授業ではない経験から緊張も見られたが、初心者の学生も自分なりにしっかり準備してきていた。他の学生もそれぞれ一生懸命練習してきていることに加え、程良い緊張感が、次の準備授業に繋がったのではと思う。もちろんピアノレッスンでは、明るく楽しい雰囲気作りを心がけ、学生の良いところやこれまでの取り組みを褒め、基本的な演奏姿勢、練習する時のポイント、もっと良くなる点など、短時間ではあったが丁寧に指導した。個人でピアノ教室に習いに行くのは負担になる学生もいるが、まだ大半の学生が高校在学中のため、わからないことがあれば、高校の音楽の先生等に教えてもらいにいくよう促した。学生のアンケート結果でも、高校の音楽の先生やピアノの先生に見て頂き、課題を進めることができたという項目で YES 68% NO 32% という結果が出ている。また、この日にピアノ進度の調査（図 3）や譜読みテスト（図 4）も行った。テストは回収して採点し、3 月 18 日に解説とともに、模範解答を配布することにした。

図 1 入学前準備授業ピアノ課題

2016 年度 新入学生の皆さんへ

信州豊南短期大学 幼児教育学科

ピアノ練習課題

- 課題① バイエル№21 または№55 を高校の音楽の先生などに見ていただき、
どちらかは必ず弾けるようにしてくる。
課題② バイエル№55 がやさしいと思う人は、ブルグミュラーのアラベスク
を弾けるようにしてくる。

今回の入学準備授業(2月20日)で、実技テストをします。十分に練習をしてきてください。

21. Moderato

トレミファツ

legato

55. Moderato

mf legato

★(紙首部記号を見落とさないように。)

図 2 入学前準備授業ピアノ課題 裏面

13

L'arabesque
アラベスク

Allegro scherzando (♩=126)

The musical score for "L'arabesque" is presented in five systems. The first system (measures 1-6) begins with a piano introduction marked *p* and *p leggiero*, followed by a crescendo. The second system (measures 7-12) features a first ending marked *f* and a second ending marked *f*. The third system (measures 13-18) includes a decrescendo and a rallentando. The fourth system (measures 19-24) starts with a piano introduction marked *p* and *a tempo*, followed by a crescendo and a section marked *p dolce* and *ten*. The fifth system (measures 25-26) concludes with a section marked *f* and *risoluto*.

図 3 ピアノ進捗状況(経験)調査

高校名

氏名

※下部にも高校名・氏名を同じように記入してください。

信州豊南短期大学 幼児教育学科

2016 年度新入生の皆さんへ

ピアノ進捗状況（経験）調査

1. 自宅（一人暮らし予定者は寮やアパート）に鍵盤楽器はありますか。

【 ピアノ ・ エレクトーン ・ キーボード ・ ない 】

2. ピアノのレッスンに通った経験はありますか。（高校の音楽の先生の指導は除く）【 ある・ ない 】ある人は、その期間を教えてください。

【 いつ（ ）～ いつ（ ）まで。計 年 】

3. 下記のピアノ練習曲集の中で、弾ける教本の番号を書いてください。

・ バイエル【 】番程度 ・ ブルグミュラー【 】番程

度

・ ソナチネアルバム【 】番程度

・ ソナタアルバム【 】番程度

4. 入学に当たり、音楽の授業への抱負を述べてください。

--

※教員記入欄

2月20日(課題曲)	2月20日(譜読み)	3月18日(課題曲)	3月18日(歌唱)
<input type="checkbox"/> まだ上手く弾けない <input type="checkbox"/> 片手OK <input type="checkbox"/> 両手OK <input type="checkbox"/> 次回再度確認 <input type="checkbox"/> 合格	点数 <input type="checkbox"/> 次回再度確認 <input type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> まだ上手く弾けない <input type="checkbox"/> 片手OK <input type="checkbox"/> 両手OK <input type="checkbox"/> 合格	点数

- ☐ 第1回入学準備不参加のため、2月20日のピアノ課題曲確認なし、譜読み確認なし
- ☐ 第2回入学準備不参加のため、3月18日のピアノ課題曲確認なし、歌唱確認なし

.....キリトリ.....

高校名 _____ 氏名 _____

※教員記入後、生徒へ渡す

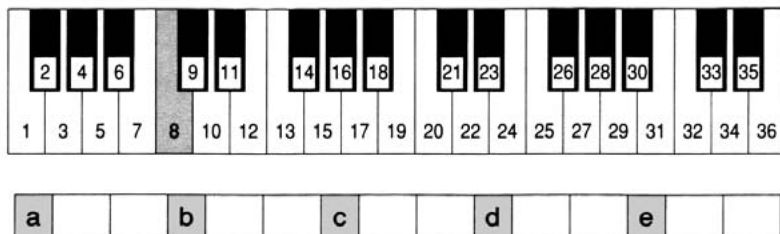
2月20日(課題曲)	2月20日(譜読み)		
<input type="checkbox"/> 3月18日再度確認します。	<input type="checkbox"/> 3月18日再度確認します。		
<input type="checkbox"/> 入学準備合格	<input type="checkbox"/> 入学準備合格		

22



a b c d e

a~eの音名と鍵盤の番号を書き入れなさい。



3月18日の準備授業は、養成校における歌唱の重要性の意識づけとして、ピアノのレッスンに加え、「ぶんぶんぶん」の歌唱を課題にした(図5)。この回の準備授業もほとんどの学生が、前回言われたことをしっかりと自分なりに復習し、大きな進歩が見られた。また、模範解答(図6)を配りながら、ト音記号と鍵盤の位置の確認など基本事項の説明も行った。入学前準備授業のアンケート結果でも、ドレミなど音符の読み方が理解できたという項目でYES 91% NO 9%と高い数字が出ている。基本事項の説明に加え、ピアノの課題を通じて多くの学生が理解できたということであろう。課題の「ぶんぶんぶん」の歌唱は、恥ずかしがりながらも懸命に歌っている姿が印象的で、上級者の学生には早速弾き歌いをしてもらった。他の学生も刺激を受けている様子だった。最後はそのうちの一人に弾き歌いをしてもらい、皆で「ぶんぶんぶん」の歌唱をして、入学前準備授業を終えた。

図 5 3 月 18 日の入学前準備授業に向けての課題

2016 年度 新入学生の皆さんへ

信州豊南短期大学 幼児教育学科

課題① 今日バイエル、アラベスクで指摘された点を復習しましょう。

再度確認と言われた学生は、次の 3 月 18 日に合格をもらえるよう取り組みましょう。

課題② 下のぶんぶんぶんの歌唱テストを 3 月 18 日に行います。

高校の音楽の先生に見て頂くなど、元気に歌えるよう練習してきて下さい。

ぶん ぶん ぶん

村野四郎 作詞
ボヘミア 民謡

♩ = 104

1~2.ぶん ぶん ぶん はち が と ぶ

{おい け の まわ り に の ぼ ら が さ い た よ}
{あ さ つ ゆ き ら き ら の ぼ ら が ゆ れ る よ}

ぶん ぶん ぶん はち が と ぶ

図 6 新入生向け譜読みテスト 模範解答

新入生向け譜読みテスト



a~eの音名と鍵盤の番号を書き入れなさい。

低 → 高

2	4	6	9	11	14	16	18	21	23	26	28	30	33	35						
1	3	5	7	8	10	12	13	15	17	19	20	22	24	25	27	29	31	32	34	36

ド レ ミ ファ ノ ラ シ ド レ ミ ファ ソ

a	ド	8	b	ミ	12	c	ソ	27	d	レ	22	e	ド	20
---	---	---	---	---	----	---	---	----	---	---	----	---	---	----

音符は糸線の上, 糸線と糸線の間, 糸線の上 ...
 というように一つずつあがっていきます。

ド (糸線の上)
 レ (糸線と糸線の間)
 ミ (糸線の上)

まずはここまで
 しっかり覚えましょう!!

3 入学前準備授業アンケート結果の考察とこれからの課題

入学前準備授業についてアンケート調査を行った。

対象 本学の音楽Ⅰ受講者 56 名

- | | |
|--|----------------|
| 1) 入学前準備授業があったので、スムーズにピアノの
授業に入っていくことができた | YES 82% NO 18% |
| 2) 入学前準備授業（ピアノ）は大切だと思う | YES 98% NO 2% |
| 3) 高校の音楽の先生やピアノの先生に見て頂き、
課題を進めることができた | YES 68% NO 32% |
| 4) ドレミなど音符の読み方が理解できた | YES 91% NO 9% |
| 5) 入学前に練習の習慣ができた | YES 75% NO 25% |
| 6) 次の準備授業に向けてしっかり準備できた | YES 86% NO 14% |
| 7) ピアノの上達を実感出来た | YES 84% NO 16% |

まず入学前準備授業の総評として 1)、2) の項目で高い数字が出たのは評価できる。今年度カリキュラム、教材を変更したことを受けて、来年度はこの準備授業もより魅力的な課題に見直し、更なる充実を図っていきたい。

3) の項目も約 7 割の学生が高校の音楽の先生やピアノの先生に見て頂き、課題を進められたことは評価できる。だが、3 割の学生はどのように取り組んだのか。準備授業のレッスンで得たことを基に自学自習で頑張ってみたのか、この辺りも調査してみたい。学生の中には、社会人入学生や通信の学生など、教員になかなか聞けない環境の学生もいるはずなので、入学前準備授業の回数や時間を増やしたりして、対応していきたい。

4) の項目もピアノの課題と譜読みテスト、解説を通じて、9 割以上の学生が音符の読み方を理解できたことは評価できる。今後も適切な課題、ピアノ指導について検討を重ねていきたい。

5)、6)、7) はこの入学準備授業の大きな目標でもある。多くの学生が練習習慣の定着、自身の上達を実感できており、大変意義深い結果となった。

準備授業から入学後の最初の授業の懸け橋として、音楽Ⅰの最初の授業までにバイエル No.55 かブルグミュラーの「アラベスク」のどちらか弾ける方と、「ぶんぶんぶん」の弾き歌いを課し、更に実力を伸ばしてもらうことにした。これにより、最初の授業のスタートまでに3度、学生の力を伸ばせる機会を得ることができる。音楽Ⅰの最初の授業では、ほとんどの学生が自分なりに取り組んで、準備授業からの成長した姿を見せてくれた。だが初心者の学生にとって、「ぶんぶんぶん」の弾き歌いは難しかったらしく、ピアノの演奏だけの学生も何人かいた。今年度の経験をいかし、教材や日程、授業構成など更なる検討をし、より充実した入学前準備授業にしていきたい。

Ⅲ 音楽Ⅰの授業

1 音楽Ⅰのカリキュラム

この章では、今年度大幅に変更したカリキュラム、教材、授業での取り組み、アンケート結果などを述べていく。まず、本学の音楽に関わるカリキュラムを紹介したい。音楽関連の開講科目は以下の8科目である。

- 音楽Ⅰ（1年前期）
- 音楽Ⅱ（1年後期）
- 音楽Ⅲ（2年前期）
- 音楽Ⅳ（2年後期）
- 保育内容表現 音楽（2年前期・後期）
- 身体表現 リズム遊び（1年前期）
- こどもの歌（1年後期）
- 身体表現 民舞・和太鼓（1年前期）

この8科目のうちの音楽Ⅰ～Ⅳがピアノの授業である。「はじめに」でも述べたように、本学では個人の進度に沿った適切な教材として、バスティン・ピアノメソッドの中から、『バスティン ピアノベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）レベル 1、2、3』を用い、学生のピアノの進度により4つのコースに

分けた。まず、準備授業の課題であったピアノ演奏を聴き、教員もある程度レベルを判断した。そして、これまでのピアノの経験等を聞いたり、学生にバスティンの楽譜を実際に見てもらって、期日までに規定のカリキュラムを終えることができそうかを判断してもらい、教員、学生共に納得の上でレベルを決定した。

使用教材、本学のカリキュラムの特徴を以下に示す。また、学生に配布した音楽Ⅰ～Ⅳのカリキュラム（図7、図8）、ピアノのレッスンの際に使用したピアノ進度カード（図9）も紹介する。

■ 使用教材

1) ジェームス・バスティン

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）レベル1』

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）レベル2』

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）レベル3』

東音企画、2009年

2) 田中 常夫、平島 美保、木村 鈴代、小杉 裕子

『こどものうた（簡易伴奏曲付）』圭文社、2011年

3) 森本 琢郎、池田 恭子

『ジュニアクラスの楽典問題集』ドレミ楽譜出版社、2008年

■ カリキュラムの特徴

1) ピアノの進度に応じてレベルを細かく4つに分けた。

2) 4つのレベルに応じて、使用する教科書を分けた。

（レベル4は自由選択のため、バスティンの教科書は使わない）

3) 多くの曲の合格をもらいながら、学習を進められることにより、初心者 に自己効力感を持ってもらえるバスティンを教材として選択した。

4) 1、2年のカリキュラムを学年で区切ることなく、上限なく横断して学べ ることにより、経験者、上級者にも挑戦させ続けることを意識した。

- 5) バスティンの歌詞がある曲は必ず弾き歌いさせることにして、童謡曲への移行をスムーズにできるようにした。
- 6) どのレベルの学生にも、弾き歌いの演奏をする時には、他の学生に周りで歌ってもらったり、子どもへの声かけを含む歌唱指導をさせたりし、ピアノを始めた早い段階から保育現場での指導を意識させた。
- 7) ピアノ経験者の学生には、授業中でも随時、初心者の学生を教え、助けるよう促した。
- 8) 楽典問題集を既定の所まで終えることを実技試験の受験条件にした。初心者はもちろんのこと、経験者にも基礎知識に抜けがある場合が多いので取り入れた。質問は随時受け入れた。
- 9) 各レベルの規定以上に曲を終えている学生、前向きに取り組んだ学生は、試験での結果に加えて加点し、初心者であっても優秀な成績を取れるようにした¹⁴⁾。また経験者で、初心者に教えたり、助けたりしている学生は高く評価した。逆に実力があっても上達や意欲が感じられない場合は、厳しく採点した。
- 10) 実習曲や、就職試験曲を柔軟に授業課題と振り替えられるよう留意した。

音楽Ⅰ、音楽Ⅱの受講にあたって



音楽Ⅰ、Ⅱでは、より個人の進度に沿った適切な教材を使ってもらうために、

4つのコースに分けました。

- ・レベル1【教科書：バスティンピアノベーシックス レベル1】
- ・レベル2【教科書：バスティンピアノベーシックス レベル2】
- ・レベル3【教科書：バスティンピアノベーシックス レベル3】
- ・レベル4【教科書：自由選択 ※担当教員と相談の上、指定します。】

- 1、最初の授業時に、どのコースにするか3人の教員と相談して決めます。
- 2、3人の教員のいずれかに配属され、基本的に半期(前期なら前期期間中、後期なら後期期間中)同じ教員からレッスンを受講します。
- 3、各レベル到達以上に課題曲が進んだり、弾き歌い曲など多く合格した場合
は試験の点に加点します。

音楽Ⅰの共通事項

- ・中間試験までに楽典問題集(丸付けも自分で行う)を p.22 まで終えないと
中間試験は受験できません。
- ・最終試験までに楽典問題集(丸付けも自分で行う)を p.48 まで終え、おは
よう(p.4)を合格しないと、最終試験を受験できません。終わった人はど
んどん先に進みましょう。

音楽Ⅱの共通事項

- ・中間試験までにおべんとう(p.9、p.258)、おかえりのうた(p.7、p.254)
を合格しないと、中間試験を受験できません。
- ・最終試験までに楽典問題集(丸付けも自分で行う)を p.61 まで終え、メリ
ーさんの羊(p.12、p.303)、さよならのうた(p.224)を合格しないと、最
終試験を受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。

以下は、自分の該当コースの注意をよく読んでレッスンに臨んでください。

☆バスティンピアノベーシックス レベル1コースの学生

音楽Ⅰ 中間試験までに p. 24 最終試験までに p. 40

音楽Ⅱ 最終試験までに一冊終える。



☆バスティンピアノベーシックス レベル2コースの学生

音楽Ⅰ 中間試験までに p. 23 最終試験までに p. 37

音楽Ⅱ 最終試験までに一冊終える。

☆バスティンピアノベーシックス レベル3コースの学生

音楽Ⅰ 中間試験までに p. 25 最終試験までに p. 37

音楽Ⅱ 中間試験までにピアノ曲1曲(教員と相談) おべんとう、おかえりのうた、メリーさんの羊、さよならのうたまで終える。最終試験までにピアノ曲1曲(教員と相談) 音楽Ⅲ、音楽Ⅳのカリキュラムに従い、弾き歌い曲をどんどん進めていく(弾き歌い曲4曲以上合格すること)

☆自由選択 レベル4コースの学生

音楽Ⅰ 中間試験までにピアノ曲1曲(教員と相談) おはよう、おべんとう、おかえりのうた、メリーさんの羊、さよならのうたまで終える。以下音楽Ⅲのカリキュラムの弾き歌いをどんどん進めていく。

最終試験までにピアノ曲1曲(教員と相談) 音楽Ⅲ、音楽Ⅳのカリキュラムに従い、弾き歌い曲をどんどん進めていく(弾き歌い曲4曲以上合格すること)

音楽Ⅱ 中間試験までにピアノ曲1曲(教員と相談) 音楽Ⅲ、音楽Ⅳのカリキュラムに従い、弾き歌い曲をどんどん進めていく(弾き歌い曲4曲以上合格すること)

最終試験までにピアノ曲1曲(教員と相談) 音楽Ⅲ、音楽Ⅳのカリキュラムに従い、弾き歌い曲をどんどん進めていく(弾き歌い曲4曲以上合格すること)

音楽Ⅲ、音楽Ⅳの受講にあたって



音楽Ⅲ、Ⅳでは、音楽Ⅰ、Ⅱで学んだことを基に、より実践的な内容を学んでいきます。

- 1、3人の教員のいずれかに配属され、基本的に半期(前期なら前期期間中、後期なら後期期間中)同じ教員からレッスンを受講します。
- 2、ピアノ曲や弾き歌い曲など、基準より多く合格した場合は試験の点に加えます。

音楽Ⅲの共通事項

- ・ 中間試験までに楽典問題集(丸付けも自分で行う)を p.22 まで終え、ピアノ曲1曲、弾き歌い曲4曲を合格しないと中間試験は受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。
- ・ 最終試験までに楽典問題集(丸付けも自分で行う)を p.48 まで終え、ピアノ曲1曲、弾き歌い曲4曲を合格しないと、最終試験を受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。
- ・ 実習曲や就職試験の曲は課題曲と振り替えることが出来ます。(あまりに易しいものは不可、担当教員と相談して決定して下さい)

音楽Ⅳの共通事項

- ・ 中間試験までにピアノ曲1曲、弾き歌い曲4曲を合格しないと中間試験は受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。
- ・ 最終試験までに楽典問題集(丸付けも自分で行う)を p.61 まで終え、ピアノ曲1曲、弾き歌い曲4曲を合格しないと、最終試験を受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。
- ・ 実習曲や就職試験の曲は課題曲と振り替えることが出来ます。(あまりに易しいものは不可、担当教員と相談して決定して下さい)

弾き歌い曲 音楽Ⅲ、音楽Ⅳ進め方

- ・ ぶんぶんぶん (p. 11)
- ・ あめふりくまのこ (p. 52, p. 242)
- ・ かたつむり (p. 60)
- ・ セタさま (p. 64, p. 280)
- ・ ハッピーバースディトゥユー (p. 3, p. 296)
- ・ しゃぼん玉 (p. 88)
- ・ アイアイ (p. 74, p. 240)
- ・ バスごっこ (p. 50, p. 292)
- ・ ミッキーマウスマーチ (p. 76)
- ・ お化けなんてないさ (p. 92, p. 266)
- ・ まつぼっくり (p. 113)
- ・ どんぐりころころ (p. 114, p. 289)
- ・ きのこ (p. 118)
- ・ やきいもグーチーパー (p. 140)
- ・ まっかな秋 (p. 158, p. 300)
- ・ ジングルベル (p. 178, p. 274)
- ・ お正月 (p. 188)
- ・ 思い出のアルバム (p. 222)
- ・ いぬのおまわりさん (p. 210)
- ・ うたえバンバン (p. 16, p. 246)



ここまでの曲を全て終えた学生は、担当教員と相談し決めましょう。

※実習曲や就職試験の曲も積極的に見てもらって下さい。

図 9 音楽Ⅰ ピアノ進度カード

音楽Ⅰ ピアノ進度カード



学籍番号 _____ 名前 _____

担当教員 (_____) コース (L1・L2・L3・L4)

☆ピアノの楽譜の裏面にしっかりと貼り付けましょう。

☆受講する曲目を自分で書き込むこと。

☆定期的に練習を重ね、レッスンに臨み、注意された点をよく復習すること。

☆音楽Ⅰ、音楽Ⅱの受講にあたってをよく読んでおくこと。

♪ 中間試験まで

	受講曲目	教員サイン
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回	中間試験受験曲目	

※中間試験までに各自ピアノの課題(バ스티ン、自由選択など)を規定まで合格し、楽典問題集(丸付けも自分で行う)を p.22 まで終わらないと、中間試験を受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。

中間試験までの楽典合格(p.22 まで)、ピアノ課題規定まで合格	
----------------------------------	--

♪ 最終試験まで

	受講曲目	教員サイン
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回	最終試験受験曲目	

※最終試験までに各自ピアノの課題(バスティン、自由選択など)を規定まで合格し、楽典問題集(丸付けも自分で行う)を p.48 まで終え、おはよう(p.4)を合格しないと、最終試験を受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。

最終試験までの楽典合格(p.48 まで)、ピアノ課題規定まで合格	
弾き歌い おはよう(p.4)	
加点対象	



2 音楽Ⅰの授業を終えて

ピアノ進度カード(図9)にもあるように、第1回～第6回はピアノレッスン、第7回に中間試験を行った。

■ 中間試験の課題

1) レベル1

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ (ピアノのおけいこ) レベル1』より、p.21「とりがなく」、p.24「おばけ」(両曲とも弾き歌い)

2) レベル2

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ (ピアノのおけいこ) レベル2』より、p.17「川くんだり」、p.23「ラベンダーブルー」(川くだりは歌詞がないため、ラベンダーブルーのみ弾き歌い)

3) レベル3

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ (ピアノのおけいこ) レベル3』より、p.23「三つ子のマーチ」、pp.24-25「闘牛士」(両曲とも歌詞がないためピアノ演奏)

4) レベル4

ピアノ担当教員と決めたピアノ自由曲1曲と中間試験までの課題の「おはよう」、「おべんとう」、「おかえりのうた」、「メリーさんの羊」、「さよならのうた」の中から3曲選択

■ 各レベルの出題意図

1) レベル1

レベル1は初心者が占め、早い段階から弾き歌いに親しんでほしいという意図から、両曲弾き歌いにした。「とりがなく」は、童謡でも非常に多い、レガートで1フレーズ4小節の3部構成のため選曲した。「おばけ」はここまでのバスティンレベル1の総まとめのような曲である。スタッ

カートやスラー、アクセント、強弱、休符など多くのアーティキュレーションが登場し、ユニークな曲調であるため選曲した。初心者 of 学生も「この曲面白い、好き。」など楽しんで練習していた。

2) レベル 2

レベル 2 の「川くだり」は右手に素早い 8 分音符、中間部は左手から右手へ受け渡す 8 分音符で川の急な流れを表している。左手にはドミソ、ファラド、ソシレという基本の 3 和音がスタッカートで組み合わさっており、弾き歌い修得に向け、大事な要素が多く含まれているため選曲。「ラバンダーブルー」は 3 拍子の曲で、レガートで 4 小節を歌いきる曲である。他にも左手にドミソ、ドファラ、シファソの基本の 3 和音が（川くだりと異なり）付点 2 分音符で出てくるため選曲した。

3) レベル 3

レベル 3 も弾き歌いを経験させたかったのだが、レベル 1、レベル 2 の教科書に比べると少し弾き歌い曲の掲載が少ない。メロディの動きが複雑ということも関係している。「三つ子のマーチ」は 3 連符の学習と和音の素早いポジションチェンジ、スタッカートの奏法を身に付けさせられると思ったため選曲。「闘牛士」は強弱やスタッカートやアクセントに加え、細かなアーティキュレーションの指示 (poco a poco や cantabile) も出てきて、曲調もユニークなため選曲した。

4) レベル 4

レベル 4 の自由曲は各教員が学生と話し合い曲を決める。バロック作品、日本歌曲、ドビュッシー、三善晃、久石譲など、それぞれの個性に合ったユニークな選曲が多く見られた。これらの演奏は他のレベルの学生にも良い刺激を与えたようで、試験後の学生の感想でも、「すごかった、また次の試験も楽しみ。」などの意見が聞かれた。レベル 4 の上級者とはいえ、「おはよう」、「おべんとう」、「おかえりのうた」、「メリーさんの羊」、「さよならのうた」の 5 曲合格をもらい、その 5 曲から 3 曲を選

折し、試験で弾くのは少し難しいかとも思ったが、上級者こそ手を緩めることなくピアノに取り組んでほしい、初心者をしっかり引っ張って欲しいという思いから3曲にした。

レベル4の学生が童謡の弾き歌いのレッスンをする際には、他の学生の予習にもなるので、周りに集まってもらい、歌唱指導をしてもらった。同様にレベル1～3の学生にも、バスティンの弾き歌いの場合は、周りに他の学生を呼び、歌唱指導をしてもらった。どのレベルの学生も「弾き歌いの演奏ができることと、子ども達にその曲を指導ができるということは違いますね。」と自分が弾くだけでなく、周りに気を配りながら、声かけをしながら指導することの難しさを感じていた。だが、1年前期前半という早い段階でこのことを経験しているというのは、必ず今後の学びに繋がってくるだろう。

中間試験後には、学生に感想を発表してもらったり、音符の読みがしっかり身に付いているか、黒板に書いたト音記号やヘ音記号の音符を読ませたりして確認した。中には、読みが遅かったり、苦労している学生もあり、その原因を探してみると、全ての音符に音名や指番号を振っている学生にこの傾向が顕著に見られた。もちろんそのこと自体は悪くないのだが、全く同じメロディ、伴奏の箇所には振らなくすることや、曲に慣れてきたら少しずつ消していくよう伝えた。また、音符を見てすぐ反応できるよう、バスティンや楽典問題集で音符の問題が載っているページを教え、よく復習しておくよう伝えた。楽典の丸付けについては、しっかり終えているかを、レッスン時や試験当日に確認した。質問は随時受け付けていたが、学生が問題集を提出した時にも、しっかり身に付いているか口頭でも確認し、基礎知識の定着を図った。

第8回～第14回はピアノレッスン、第15回に前期末試験、第16回に再試験、後期に向けての予習を行った。

■ 前期末試験の課題

1) レベル 1

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）レベル 1』より、p.33「おまつり」、p.37「いい日」（おまつりは最後のかけ声のみ、いい日は弾き歌い）と「おはよう」の弾き歌い

2) レベル 2

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）レベル 2』より、p.33「船出」、p.37「宇宙探検」（宇宙探検は歌詞がないため、船出のみ弾き歌い）と「おはよう」の弾き歌い

3) レベル 3

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）レベル 3』より、pp.32-33「星条旗よ永遠なれ」、pp.36-37「剣士の入場」（両曲とも歌詞がないためピアノ演奏）と「おはよう」の弾き歌い

4) レベル 4

ピアノ担当教員と決めたピアノ自由曲 1 曲と前期末試験まで（音楽Ⅲ、Ⅳの弾き歌い）の課題の「ぶんぶんぶん」、「あめふりくまのこ」、「かたつむり」、「七夕さま」（それ以上進んだ学生はその先の弾き歌い曲）から 2 曲選択。

■ 各レベルの出題意図

1) レベル 1

レベル 1 の「おまつり」は、民族的な香りのする 3 拍子のユニークな曲で、クレッシェンドやデクレッシェンド、スタッカート、タイ、アクセントなど様々なアーティキュレーションが登場するため選曲。「いい日」は童謡でもよく出てくるアウフクタクトの弾き歌い曲で、前半は右、後半は左にメロディが移り、軽快なスタッカートの伴奏が出てくるため選曲した。

2) レベル 2

レベル 2 の「船出」は非常に明るい曲で、基本の 3 和音に加え、ドッペルドミナントの和音やフェルマータも出てくる魅力的な曲のため選曲。「宇宙探検」はヘ長調の曲で、左手、右手にスタッカートの 3 和音が出てくるのが特徴である。左手の和音は普段から弾いているので慣れているが、右手の和音に苦勞している学生も多かった。また、スケールの形も左右に出てきて、非常に学ぶところが多いため選曲した。

3) レベル 3

レベル 3 の「星条旗よ永遠なれ」は、童謡曲でも多く出てくるアルペルティバスが曲を通じて出てくこと、最近の童謡曲に増えている多様なコード進行が見られるため選曲。「剣士の入場」は 2 部形式の曲で、左右共に半音階が多く出てくるリズムカルで魅力的な曲のため選曲した。

4) レベル 4

レベル 4 の学生の自由曲は、中間テストと同様ユニークな選曲が多く見られた。また「ぶんぶんぶん」、「あめふりくまのこ」、「かたつむり」、「七夕さま」から（それ以上進んだ学生はその先の弾き歌い曲）選曲した 2 曲の弾き歌いも順調にこなしていた。レベル 4 の学生は、この時点で本学の 2 年前期のカリキュラムに合流している。経験者、上級者にこそ挑戦し続けてほしい、他の 1 年生を引っ張ってほしいという点から、このようなカリキュラム、試験曲にした。今年度の試験の様子を見ると、来年度の弾き歌いは 3 曲でも良いかもしれない。

中間試験以降のカリキュラムの特徴は、レベル 1 ～ 3 の学生に共通で、「おはよう」の弾き歌いを課したことである。特にレベル 1 の学生にとっては、初めて出てくる付点 8 分音符、16 分音符の付点のリズムや初めての指くぐりもあり、非常に苦勞している様子が見られた。まず手拍子で付点のリズムを体感させたり、レベル 4 の学生に伴奏をしてもらい、皆で歌ったりすることでリズ

ムを覚えさせた。また、2台のピアノに5～6人同時に座らせ、片手だけ弾く練習もした。レベル3やレベル4の学生に指導を手伝ってもらうなど様々な工夫をし、前期終了時には、ほぼ全ての学生が「おはよう」を弾き歌いできるようになった。ピアノの上達というのは、決して一人だけで達成できるものではない。今回、学生皆で助け合い、課題を乗り越えることで一体感が生まれ、音楽教育にとって理想的な姿を見ることができた。

第16回（通常の試験期間）は、試験時に「おはよう」のリズムが少し危なかった学生の再試験や、後期の中間試験までのレベル1～3までの共通課題である「おべんとう」、「おかえりのうた」の指番号やリズムの確認をした。すでに学習済みのレベル4の学生には、一緒に巡回して指導を手伝ってもらった。前期の最終回到試験をするのではなく、夏休みに有効な学習ができるよう、このような日程にした。

音楽I受講の学生達は、ピアノのレッスンをごく自然に楽しみ、皆で頑張ろうという雰囲気が見て取れた。経験者は初心者を助け、学生同士で教えあい、初心者も上達に向け懸命に努力していた。中間試験、前期末試験までにほぼ全員が規定まで、もしくはそれ以上まで終え（中にはバスティン1冊終えた学生も何人かいる）、多くの加点評価者が出た。熱心に取り組んだ初心者の多くには優秀な成績を付け¹⁴⁾、経験者で初心者に対して教えたり、助けたりしている学生は高く評価した。今年度の教材、カリキュラムの変更は成功したと言って良いだろう。

3 音楽Ⅰの授業を終えた学生のアンケート結果の考察

音楽Ⅰの授業を終え、学生にアンケート調査を行った。

対象 本学の音楽Ⅰ受講者 56 名回答

■ ピアノの経験等について

1) 音楽が好きである YES 91% NO 9%

2) 幼稚園教諭・保育士を目指し、ピアノを頑張りたい
YES 96% NO 4%

3) 今までのピアノの経験に一番近いものを選んでください

(本学入学時点の経験) 10 年 16% 5 年 14% 3 年 16% 初心者 54%

1)、2) の項目で高い数字が出たのは指導者としては非常に有り難い。好きこそものの上手なれというように、まずは音楽が好きであること、そしてどのような進度にあっても、幼稚園教諭・保育士という目標に向けて頑張ろうという、ピアノへの意欲は非常に大切である。学生が素直で指導しやすかったのは、これらの項目の結果によるものであろう。

新カリキュラムでは、学生を進度別に 4 つのレベルで分けたが、レベル 1 は 54%、レベル 2 は 20%、レベル 3 は 10%、レベル 4 は 16% となった。上記のアンケートは無記名で行ったため、どの経験年数が誰のものかはわからないが、経験年数とバスティンのレベル分けの数値が、レベル 1 は初心者、レベル 2 は 3 年、レベル 3 は 5 年、レベル 4 は 10 年というように、見事に合致している。この結果には筆者も大変驚いた。一概には言えないが、今後学生とバスティンのレベルを決めていく上で、一つの指標になるかもしれない。

■ 音楽Ⅰの授業を終えてのアンケート

1) 音楽Ⅰの授業は楽しかった YES 95% NO 5%

2) レベルが4つに分かれていたため、自分の適切なレベルで学べた	YES 96%	NO 4%
3) バスティンは楽しく進められた	YES 82%	NO 18%
4) バスティンで弾き歌いも学べて良かった	YES 90%	NO 10%
5) 次々と合格がもらえるのが嬉しかった	YES 91%	NO 9%
6) ピアノの上達を実感できた	YES 89%	NO 11%
7) 他大の学生にもバスティンを勧めたい	YES 76%	NO 24%
8) 他大の学生にも細かなレベル別の学習を勧めたい	YES 91%	NO 9%
9) ピアノをコツコツと練習してレッスンに臨めた	YES 79%	NO 21%
10) それぞれの曲にタイトルがついているので、 曲のイメージを膨らましやすかった	YES 76%	NO 23%
11) バスティンを通じて歌唱指導も学べて良かった	YES 82%	NO 18%
12) 以前よりピアノを身近に感じるようになった	YES 93%	NO 7%
13) ピアノ、音楽のイメージが変わった	YES 80%	NO 20%

ピアノの授業を受講している初心者から上級者まで様々な進度の学生の感想として、95%もの学生が楽しかったと回答している。また、4つのレベル分けをし、それぞれ異なる教材を通じて適切なレベルで学べたと、96%にも上る多くの学生が満足感を得ているのは、非常に意義深いことである。

他にも、バスティンの養成校における教材の可能性について、以下のようなことが読み取れる。

- ・ 楽しく進められた 82% (教材の魅力)
- ・ 弾き歌いも学べて良かった 90% (童謡の弾き歌いへのスムーズな移行)
- ・ 次々と合格をもらえて嬉しかった 91% (自己効力感の形成)
- ・ 上達を実感できた 89% (自己効力感の形成)
- ・ コツコツと練習してレッスンに臨めた 79% (練習習慣の定着)

- ・それぞれの曲にタイトルがついているので、曲のイメージを膨らましやすかった
76% (ピアノの学習初期段階からの想像力の育成)
- ・バスティンを通じて歌唱指導も学べて良かった
82% (1 年前期というピアノ学習初期段階からの保育現場への意識づけ)
- ・以前よりピアノを身近に感じるようになった
93% (ピアノへの親近感)
- ・ピアノ、音楽のイメージが変わった
80% (この半年のピアノの学びを経て、ピアノ、音楽に対する意識の変化)

また、下記の項目でも高い数字が出ており、養成校のピアノの先生方にも是非、バスティン、レベル別学習を検討して頂きたいという結果になった。

- ・他大の学生にもバスティンを勧めたい
76% (バスティンの魅力伝播の願い)
- ・他大の学生にも細かなレベル別の学習を勧めたい
91% (レベル別学習の高い満足感)

IV おわりに

本稿では、本学での入学前準備授業とバスティン・ピアノメソードを用いた、ピアノのレベル別学習について述べてきた。入学前準備授業は、今や7割にも及ぶ初心者のスムーズなピアノ教育への導入に欠かすことのできないものであり、保育者養成校全体が取り組んでいかなければならないだろう。本学もより充実した内容になるよう、教材や日程、授業構成など更に検討を重ねていきたい。

また、引き続きバスティン・ピアノメソードを用いた新カリキュラムの学生の成長を見守るとともに、この優れた教材を基にしながら、保育現場からの要求に耐えうる、より充実したカリキュラム作りを続けていく所存である。そして何より、学生がピアノの魅力を存分に感じ、力を伸ばしていける教育をこれからも求め続けていきたい。

〈注〉

1) 伊藤 崇達

「学業達成場面における自己効力感，原因帰属，学習方略の関係」

『Japanese Journal of Educational Psychology』(44)、pp.340-349、
1996 年

伊藤（1996）は、自己効力感とは一定の結果に導く行動をうまくやれるかどうかという期待であり、その期待を自らが抱いていることを自覚した時に生じる自信のようなものと述べている。

2) 西海 聡子、依田 洋子、今川 典子、高田 いちえ

「保育者養成校における器楽（ピアノ）教育（2）－初心者における弾き歌いの難しさとその改善の試み－」

『宝仙学園短期大学紀要』(33)、pp.37-50、2008 年

伊藤 仁美、葛西 健治、多賀 洋子、今川 典子、嶋田 陽子

「保育者養成における音楽授業科目に関する一考察（1）－本学の初年次音楽教育カリキュラムの比較を通して－」

『こども教育宝仙大学紀要』(6)、pp.1-10、2015 年

吉村 淳子、芝崎 美和

「保育者養成におけるピアノ指導について－学生の自己効力感に着目して－」『新見公立大学紀要』(36)、pp.59-66、2015 年

西海ら（2008）によると、昭和 62 年度入学生では、初級者（経験なしとバイエル程度）は 18% であったが、平成 18 年度入学生では、初級者が 52%、伊藤ら（2015）が引き続き行った、平成 26 年度入学生の初級者は 72.2% と著しく増加したと述べている。吉村（2015）の調査でも 2014 年度入学生ではピアノ未経験者は 30%、初心者（バイエル少し）が 30% となっており、60% の学生はほとんどピアノが弾けない状態で入学している現状で

あると報告している。

³⁾ 柏瀬 愛子、牛田 幸子

「ピアノ教則本「バイエル」について分析とその活用」

『名古屋女子大学紀要』(32)、pp.217-229、1986 年

小倉 隆一郎

「幼児教育および小学校教員養成課程におけるピアノ基礎技能テキストの考察」『文教大学教育学部紀要』(47)、pp.23-32、2013 年

柏瀬・牛田（1985）の全国の教員養成校 200 校（回収できたのは 160 校）を対象にしたバイエルの利用状況に関するアンケート調査では、バイエル教則本を使っている養成校が 76%、主にバイエルから抜粋した教本を利用している養成校を含めると 92% でバイエルが使われていた。この調査から約 30 年の時を経て、養成校の使用教材にどのような変化があったのか見てみたい。

小倉（2013）の関東地区の保育士・幼稚園教諭および小学校教諭養成校 36 校（回収できたのは 29 校）を対象にしたアンケート調査では、バイエルピアノ教則本をテキストに採用している養成校は 15 校（51.7%）、主にバイエルから抜粋した教本を利用している養成校は 5 校（17.2%）、両方で 20 校（68.9%）である。これに、学校で決められたテキストは特に無く自由に選択しているが、本年はバイエルを使っているという 1 校を加えると、21 校（72.3%）の養成校がバイエルまたはバイエルを含むテキストを採用しているという事実を報告している。

⁴⁾ 小倉（2013）のアンケート調査では、他にもバイエル容認派の意見として「順を追って基本的に演奏技術を身につけるため。」「読譜・指づかいなど基本から発展させていける。」「未経験や多少の経験がある学生にとって学習しやすい。」「採用試験にバイエルが使われているため、初心者に指導しやすいため。」「地域差はあると思うが、現場の就職試験は現在もバイエル・ブル

グミュー等で学生のレベルをみることが多いと思う。当短大では2年生になるとブルグミューに進む（1年単位未修得者は別）。現場での試験の目安になっていると思う。」とある。

5) 平井 淑子

『バイエルと共に進むピアノ曲集第2集』全音楽譜出版社、1961年

6) 木村 貴紀

「『バイエル』の使用から浮かび上がる音楽教育法のあり方」

『共栄学園短期大学研究紀要』(25)、pp.165-176、2009年

7) 笠井 かほる、宮脇 長谷子、井口 太

「保育者養成におけるピアノ指導に関する研究Ⅰー学生の好む音楽のリズム分析を通してー」

『日本保育学会大会研究論文集』(47)、pp.618-619、1994年

8) 若菜 直美、高橋 由季子、西村 範子、磯田 由紀子、酒井 由美子

「短期大学保育科における初学者・初心者のためのピアノ指導法の改善ー専任講師・非常勤講師の協同・協奏の試みー」

『文化女子大学室蘭短期大学研究紀要』(29)、pp.5-22、2006年

奥 千恵子

「保育者養成と演奏技法（Ⅲ）ー保育指導としてのピアノ導入教材についての試みー」『四天王寺大学紀要』(58)、pp.243-260、2014年

小倉（2013）のアンケート調査でも「いわゆる、バイエル・チェルニー・ソナタ信仰からどう脱出するか、本学でも近いうちに議論しなくてはならないと強く思っています。」「保育園・幼稚園の就職試験に沿って教本が決まったり、バイエルが無難という考えの先生方が多い気がします。」と教材を模索している教員の姿が読み取られる。

若菜ら（2006）は、ピアノを学びながら、楽典や伴奏で使用する和音の学習ができるものが良いと考えたこと、様々なスタイルの曲、子どもの共感

を誘導する曲で練習を積むことが大切であると考え、初学者・初心者に『おとなのためのピアノ教本 1、2』（橋本晃一 ドレミ出版 1992 年）を、それを終えた学生に、『未来の保育者・教師のためのシング・ウォーク・ダンス』（坪能由紀子・長橋晴子・野本由紀夫 音楽之友社 2004 年）の使用を始めたと述べている。『おとなのためのピアノ教本』著者の橋本晃一もピアノ学習を始めるにあたり、辛い基礎の積み上げや困難の克服によるピアノ学習ではなく、最初から楽しく学習することを提案している。1 曲進むごとに新しい知識と技術を身につけながら、クラシックやポピュラーが楽譜通りに弾けるようになり、コード・ネームにしたがって自分で伴奏をつけながら弾けるようになると述べている。

奥（2014）も、常々バイエル使用に問題点を感じていたことから、初心者講座で、従来の『バイエル教則本』から、『おとなのためのピアノ教本 1』に変更し、講座中での『おとなのためのピアノ教本 1』修了者には、補助教材として『おとなのためのピアノ教本 2』『バーナムピアノテクニク』『バステイン・ピアノライブラリー』からの抜粋曲を取り入れている。保育者養成校ならではのピアノ導入教材、指導法について模索している。

⁹⁾ Miyoshi ピアノ・メソードへの招待 1

https://www.youtube.com/watch?v=a_9qiOxyGL4

（2016 年 8 月 25 日現在）

Miyoshi ピアノ・メソードへの招待 2

<https://www.youtube.com/watch?v=AziXy8y4Nw0>

（2016 年 8 月 25 日現在）

Miyoshi ピアノ・メソードへの招待 3

<https://www.youtube.com/watch?v=9hUHhNj-hRM>

（2016 年 8 月 25 日現在）

- ¹⁰⁾ 本学の学生の卒業要件を見ても、短期大学生の卒業要件単位が 62 単位であるのに対し、幼稚園教諭二種免許状取得者は 63 単位、保育士取得者

は 74 単位、多くの学生が目指す両方の免許を取得するためには、91 単位の取得が求められる。

- ¹¹⁾ 吉村 (2015) も「入学前にピアノを習っていなかったという事実は、いまさらどうすることもできないことであるならば、このネガティブ感情をどのように前向きな気持ちに変えていくことができるのか、自己効力感を高めていくためには、どのような指導をすればよいのかを考えていくことが重要となる。2 年生になっても、1 年間の授業で明らかに入学時よりは弾けるようになっているはずなのに、自己効力感が高まらない。これは、ピアノに関して学生が他者との比較の中で常に自分を見ているためと考えられる。「自分がどのくらい弾けるようになったか」ではなく、常にピアノの習熟度の高い学生と比較して、「まだまだ自分は上手ではない」という意識に支配されていることが想定される。また、指導者側も、「ここまで弾けるようになったね」ではなく、「もっともっと」と常にピアノ教本の難しい曲に挑戦することを目指すという指導になっている傾向があることも十分に考えられる。ピアノの未経験者に対して、ピアノを弾くことに楽しさを感じ、もっと弾けるようになりたいという意欲を持たせ、「自分はここまでこんなに弾けるようになった」という自己効力感を高めていく必要がある。」と述べている。

- ¹²⁾ バスティン・ピアノメソード 東音企画

<https://www.to-on.com/bastien/about>

(2016 年 8 月 25 日現在)

ジェーン・バスティンがピアノの演奏技術を身につけるだけではなく、音楽のあらゆる分野を学習しながら幅広い音楽体験がなされるように構成された学習法で、1970 年代にアメリカのジェーン&ジェームス・バスティン夫妻により、創始・開発された。

バスティン・ピアノメソードの特徴を（筆者要約）「生徒にとって難しい曲を 1 ～ 2 曲を宿題に出すのではなく、楽にこなせる曲を数多く弾かせることで、

生徒は楽譜を見て色々な曲が沢山弾けたということに達成感を得ることができ、ますますやる気を起こす。これにより、生徒が早い段階から自分で学習する力を身につけることができ、「演奏を楽しむ」という音楽の本質的な価値を生徒に理解してもらうことができる。同じレベルの曲を数多くこなすことで、自然と真の読譜力がつき、初見もできるようになる。バスティン先生は 30 分のレッスンで短い曲を 15 曲以上弾かせる。新しい課題へ無理なく導入するために、予備練習から基礎、応用、展開へと順序よく自然と指導ができるよう作られている。指導者は常にゴールから逆算して、4 期（バロック、クラシック、ロマン、近現代）の名曲を弾くために必要な音楽理論、テクニック、音楽性などを導入期から、各時期にあわせた形でバランスよく取り入れている。」と述べている。

¹³⁾ 奥 千恵子

「保育者養成と演奏技法（Ⅱ）ーピアノ初心者対象の入学前教育の取り組みー」『四天王寺大学紀要』（55）、pp.325-341、2012 年

¹⁴⁾ ピアノ試験の採点基準について、若菜ら（2006）も実技試験の採点には学習経験別に達成基準を定め、学習経験レベルに応じた到達度を評価することにしたと述べている。吉村（2015）も若菜ら（2006）の意見に賛同しており、意欲的な学生にとっては、初心者・初学者であっても努力次第で成績が「優」となる可能性を与えていると述べている。

参考文献

吉村 淳子

「保育者養成におけるピアノ教育についての試みー学生へのアンケート調査からー」『新見公立大学紀要』（33）、pp.87-92、2012 年

吉村 淳子

「保育者養成におけるピアノ教育に関する一考察」

『新見公立大学紀要』(34)、pp.51-54、2013 年

吉村 淳子

「保育者養成におけるピアノ初心者に対する指導」

『新見公立大学紀要』(35)、pp.77-80、2014 年

宮脇 長谷子、笠井 かほる、井口 太

「保育者養成におけるピアノ指導に関する研究Ⅱ－学生の好む旋律分析を通して－」

『日本保育学会大会研究論文集』(47)、pp.620-621、1994 年

奥 千恵子

「保育者養成と演奏技法－保育指導としてのピアノ奏法－」

『四天王寺大学紀要』(48)、pp.137-154、2009 年

福井 真裕子、別所 ユウキ

「保育者養成校におけるピアノ指導教材に関する一考察－B. ツィーグラ一のピアノ教本に着目して－」

『京都聖母女学院短期大学研究紀要』(43)、pp.82-91、2014 年

荻田 泉

「幼児・初等教育の指導者養成におけるピアノ指導法の研究－初心者の学習意欲を高める教授法について－」

『四天王寺大学紀要』(53)、pp.215-232、2011 年

坂井 康子、山崎 和子、衣川 久美子

「保育士・幼稚園・小学校教諭養成課程におけるピアノ指導」

『甲南女子大学研究紀要 人間科学編』(45)、pp.21-30、2009 年

新海 節

「保育士及び幼稚園教諭養成校のピアノ指導における一私見」

『帝京学園短期大学研究紀要』(15)、pp.1-8、2008 年

バイエル

『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社、2008 年

ブルグミュラー

『ブルグミュラー 25 の練習曲』全音楽譜出版社、2008 年

ジェームス・バスティン

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）レベル 1』

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）レベル 2』

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）レベル 3』

東音企画、2009 年

田中 常夫、平島 美保、木村 鈴代、小杉 裕子

『こどものうた（簡易伴奏曲付）』圭文社、2011 年

森本 琢郎、池田 恭子

『ジュニアクラスの楽典問題集』ドレミ楽譜出版社、2008 年

三善 晃

『Miyoshi ピアノ・メソード 1-12』カワイ出版、2008 年

橋本 晃一

『おとなのためのピアノ教本 1』ドレミ楽譜出版社、1998 年

『おとなのためのピアノ教本 2』ドレミ楽譜出版社、1998 年

文部科学省 幼稚園教育要領 第 2 章 ねらい及び内容

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/nerai.htm

(2016 年 8 月 25 日現在)

厚生労働省 保育所保育指針

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf>

(2016 年 8 月 25 日現在)